

火災による病院避難に対する 後方支援のDMAT活動報告



岩手県立胆沢病院 1)呼吸器内科, 2)泌尿器科, 3)看護科
小野寺克洋¹⁾ 忠地一輝²⁾ 小野寺真知子³⁾

背景

- ◆近年、水害や地震による病院避難においてDMAT活動が報告されている。
本邦では病院火災はあってもぼや、部分焼が大半であり、火災による病院避難の報告はない。
病院等における実践的防災訓練ガイドライン 2018
有賢徹、日本病院会雑誌 2019
- ◆今回、火災による病院避難に対して、当院からDMAT隊の派遣と後方支援を行ったため、報告する。

経過

時刻	発	受	内容
9時過ぎ			県立E病院手術室で火災が発生
9:46	O消防	総務課長	DMAT派遣要請
9:52	総務課長		コードブルーでDMAT隊員を招集
9:55	E病院	ヘリポート	患者は総合支所へ避難完了①
10:18			DMAT2隊7名を現地派遣、6名は院内で後方支援
10:40	K救急	医事課	透析患者3名の受入れ要請② (入院/外来、患者情報等の詳細不明)
10:49	総合支所	ヘリポート	入院患者59名を転院予定
11:03	ヘリポート	総合支所	各病院の患者受入れ可能人数を報告
11:03	総合支所	ヘリポート	赤患者計5名の受入れ要請 総合支所で外来透析患者の管理を行っていないことが判明
11:41	救急隊	救急室	患者到着③
11:50	総合支所	ヘリポート	赤患者9名以外はE病院へ戻る方針④
11:55	ヘリポート	各病院	受入れ待機解除を連絡
13:05	ヘリポート		入院患者5名、外来透析患者2名の受入れ完了を確認

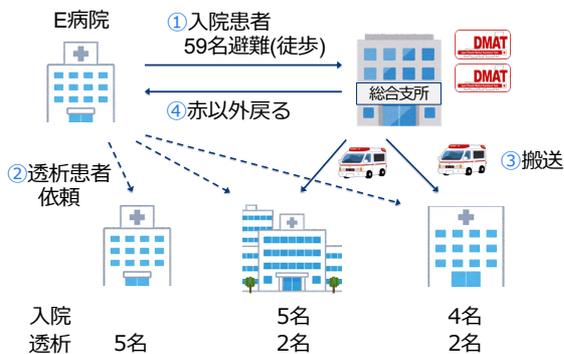
CSCA

Command & Control	総合支所：現場活動指揮所 胆沢病院会議室：後方支援 他の指揮系統：不明
Communication	グループLINEで情報共有 EMIS入力
Assessment	江刺病院の被害状況不明 総合支所の 患者59名を転院予定

市内・近隣病院の患者受入れ状況

病院	男	女	計	コロナ
胆沢			17	×
A	10	10	20	○
B			4	
C			19	×
E	2	2	4	×
F			7	×
G	5	5	10	×
計			91	

フロー



考察

- ◆機械室ダクトからの出火であり、火元の特定・初期消火が行えず、煙が充満してきたため早期の病院避難の判断に至った。
- ◆火災の場合には発災から避難までの時間的猶予が少ない。発生早期のコミュニケーションと指揮命令系統の確立が必要とされる。
覚知から約1時間で入院患者の避難完了、約2時間で患者搬送が開始。

Andy W. et al. NHS London 2009

【課題】

- ◆後方支援では、総合支所以外の指揮系統、被害の全容が把握できなかった。
→複数のルートから患者受入れ要請があり、情報が錯綜した。
- ◆避難誘導が優先され、E病院内には本部が確立されなかった。
- ◆夜間、悪天候時の避難には検討を要する。

【想定】

- ◆59名以外に外来透析患者の受入れ人数が大幅に増える？
- ◆全患者避難の場合には、搬入場所の確保、人員配置が必要。
- ◆情報共有の手段として、webミーティングの活用が考えられた。



結語

火災による病院避難では、時間的猶予がなく、Command & ControlとCommunicationの重要性を認識した。